

令和6年度東部地区社会教育関係委員・職員研修事業概要

教育事務所名 東部教育事務所  
実施場所 三郷市文化会館

実施日	令和7年1月29日（水）	
対象者 及び 人数等	社会教育委員 38人	生涯学習審議会委員 18人
	社会教育指導員 2人	社会教育担当職員 25人
	社会教育施設職員 2人	公民館運営審議会委員 3人
	その他 1人	計 89人
時間数	13:40 ～ 16:05 （2時間25分）	
講師	講師 1人・合計 1人	
	講師 学校法人文教大学学園 理事長 野島 正也 氏	
研修内容	<p>1 開会行事</p> <p>2 実践発表</p> <p>(1)実践発表1 行田市</p> <p>①発表題 笑顔を広げよう ～行田市ジュニア・リーダーズクラブ～</p> <p>②発表者 行田市教育委員会生涯学習課 増地 美保 氏</p> <p>(2)実践発表2 三郷市</p> <p>①発表題 『つどう』『まなぶ』『むすぶ』公民館 ～公民館事業で、人々をつなげる社会教育の役割～</p> <p>②発表者 三郷市立北公民館 館長 室伏 延人 氏 社会教育委員 子育てアドバイザー 山田 廣美 氏</p> <p>3 講演 演題『ウェルビーイングー「地域の幸せ」という考え方ー』 学校法人文教大学学園 理事長 野島 正也 氏</p> <p>4 閉会行事</p>	
評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行田市の実践発表は、子どもたちがさまざまな経験を通じて成長できる事業展開をしており、「恥ずかしがらず、楽しい雰囲気を作ること」を意識されている点が参会者によく伝わる内容であった。</li> <li>・三郷市の実践発表は、「おしゃべりしちゃおう」「スマホコンシェルジュ」など、地域住民の声を踏まえた講座実施の紹介や、社会教育委員で子育てアドバイザーの方の実演を通してつながりの大切さを実感できる内容であった。</li> <li>・講演では、専門的な視点から『ウェルビーイング』や地域社会などを理解するとともに、「弱いつながり」の大切さを実感できるよい機会となった。</li> </ul>	

# 令和6年度 東部地区社会教育関係委員・職員研修会実施要項

## 1 趣 旨

東部教育事務所管内各市町の社会教育委員及び社会教育関係職員等を対象とした研修会を実施し、地域の実情に応じた実践成果の発表や提言、提案等を通じて、今後の活動のあり方を具体的に発信できる人材の育成を図る。

## 2 主 催

- ・埼玉県教育委員会 ・埼玉县市町村社会教育委員連絡協議会
- ・北埼玉地区社会教育委員協議会 ・埼玉葛郡社会教育振興会

3 日 時 令和7年1月29日(水) 13時10分～16時30分

4 会 場 三郷市文化会館

## 5 参加者

- ・各市町社会教育委員 ・各市町社会教育指導員 ・各市町社会教育担当職員
- ・各市町社会教育施設職員
- ・各市町公民館運営役員会 等

## 6 研修テーマ

「人々をつなげる社会教育の役割」

7 内 容 開会行事、実践発表等

## 8 実践発表市町(発表ローテーション) 令和6年度：行田市、三郷市

※輪番順(北埼玉)：行田市→加須市→羽生市

※輪番順(埼玉葛郡)：春日部市→吉川市→三郷市→久喜市→白岡市→八潮市→幸手市→越谷市→杉戸町→蓮田市→松伏町

年度	R02	R03	R04	R05	R06	R07	R08
北埼玉地区	加須市	—	羽生市	—	行田市	—	加須市
埼玉葛郡市	越谷市	杉戸町 蓮田市	松伏町	春日部市 吉川市	三郷市	久喜市 白岡市	八潮市

## 9 運営役員会

(1) 日 時 令和6年11月12日(火) 14時00分～

(2) 会 場 三郷市文化会館

(3) 参加者

- ①北埼玉地区社会教育委員協議会…会長、副会長、幹事、発表者
- ②埼玉葛郡社会教育振興会…会長、副会長、幹事、発表者



# 研修会の要約

## 1 実践発表

### 【実践発表1 行田市】

#### ①発表題 笑顔を広げよう

～行田市ジュニア・リーダーズクラブ～

#### ②発表者 行田市教育委員会生涯学習課 増地 美保 氏

- ・行田の教育ビジョンは学びを通して得た力を地域づくりに生かせる「学びの好循環」の推進であり、ジュニアリーダーは子どもの健全育成と思いやりで満たした社会の実現となっている。
- ・クラブについては、子どもたちのよき遊び相手、話し相手として、中学生を対象にスタートし、高校生以上はスタッフとしてサポートしている。
- ・主な研修・活動については、開講式・交流会から始まり、宿泊研修や小学生サマーキャンプを行っている。
- ・サマーキャンプのメインはレクリエーションで、キャンプに向けて、救命講習、打ち合わせ、説明会、練習・指導を行っている。レクリエーション進行の中で、説明にアドリブ（コント）を入れて、できていたら、とにかく褒めるようにしている。周囲から期待されるとパフォーマンスが向上する現象（ピグマリオン効果）が起きる。
- ・様々な要因で、公園や学校で子どもたちが自由に集まって遊ぶ機会も減少傾向にあるが、遊具がなくても大人数で盛り上がることのできる遊び、レクリエーションを知ってもらい、他者とのふれ合いや教えるという経験をもって、コミュニケーション能力の向上や創造性の伸長につながることを期待している。



### 【実践発表2 三郷市】

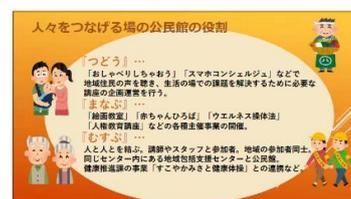
#### ①発表題 『つどう』『まなぶ』『むすぶ』公民館

～公民館事業で、人々をつなげる社会教育の役割～

#### ②発表者 三郷市立北公民館 館長 室伏 延人 氏

社会教育委員 子育てアドバイザー 山田 廣美 氏

- ・三郷市立北公民館は、児童館と併設された公民館であり、主催事業のみを実施。
- ・市内唯一の公民館であり、令和5年度の事業では、対面で34事業、オンデマンドで4事業を行っている。
- ・動画イベントウエルネス操体法では講話と運動の実践、中学生対象の絵画教室、テレビ番組の舞台裏「アナウンサー体験」など、市民の皆様に喜ばれる事業を計画して実施している。また、スマホコンシェルジュ事業、人権教育事業、家庭教育支援事業では、「赤ちゃんひろば」を実施している。
- ・「赤ちゃんひろば」では、5組くらい参加があり、スタッフの構成は子育てアドバイザー、主任児童委員、民生・児童委員、公民館職員となっている。わらべ歌などの動画も撮って掲載している。
- ・「赤ちゃんひろば」に参加されている保護者やスタッフからは、お友達ができ、相談できて良かった、赤ちゃんの成長を見守りたい、楽しい等の感想をいただいている。
- ・社会教育の役割を果たす公民館は、地域の良い関係づくりを行い、人と人をつなぐ場所である。



## 2 講演

①講師 学校法人文教大学学園 理事長 野島 正也 氏

②演題 『ウェルビーイングー「地域の幸せ」という考え方ー』

- ・「ウェルビーイング」という言葉は、教育の指針として、政府の方針として決め、目標の1つが「日本社会に根ざしたウェルビーイングの向上」である。
- ・「ウェルビーイング」は最近はやりのカタカナ言葉で「心身の健康と幸福」などと訳されており、人によっては聞きなれないカタカナ言葉だか、医療・社会福祉の領域ではかなり浸透している言葉である。
- ・生涯学習の基盤となるのは、地域社会の発展を含めたウェルビーイングの実現を支えるコミュニティである。
- ・地域社会を支える地域のつながりは2つあり、「強いつながり」は、友達や職場の関係となり、局所的に凝集する傾向があり、地域のなかでの断片化・孤立化をもたらすこともある。
- ・「弱いつながり」は、犬の散歩やボランティアで出来た知り合い、公民館の学習で出来た知り合いとなり、外側にネットワークを広げ、個人を地域社会につなげる役割を果たしている。
- ・地域のウェルビーイングの発展は、地域で人と人との「弱いつながり」をどれだけ作れるかにかかっている。
- ・高齢者は地域社会で役割を持てる存在であり、その環境が整ってきている。平均寿命の延伸、健康寿命の延びでは不十分であり、社会とつながり、役割をもって生きるという「貢献寿命」の伸びが必要である。
- ・地域人材は、発掘されるものではなく、住民とのコミュニケーションの中で見えてくる。地域人材は社会教育委員・公民館運営審議会委員、社会教育関係職員の見えるところにいる。「人材見つけ」を自らの「課題」と捉えることが重要である。



## 3 アンケート抜粋

【参会者のアンケート結果】…回答率82%（回答数73票／参加者89名）

①実践発表について

回答	人数
参考になった	43
概ね参考になった	28
あまり参考にならない	1
参考にならない	1

- ・実践の発表は非常に参考になる。それぞれの体験等の話は素晴らしいと思う。自分たちの活動に取り入れたい。
- ・社会教育を難しく考えず、ちょっとした会話から始めることが大切だと感じた。

②講演について

回答	人数
参考になった	63
概ね参考になった	10
あまり参考にならない	0
参考にならない	0

- ・言葉だけが一人歩きしていたウェルビーイング、コミュニティの言葉の整理ができた。弱いつながりや、対面の大切さなどについても、わかりやすい説明だった。
- ・「個人を支える場、場を支える個人」の両方が重要、そして非対面より対面が重要という考え方に共感した。

## 4 成果と課題

【成果】

- ◎参集での研修会や実践発表、講師による講演が、参会者に好評であった。
- ◎研修会を通して、新たなつながりが生まれている場面も見られた。

【課題】

- ▲参会者から質疑応答の時間がほしいという意見があった。  
→次年度以降の研修会の日程について検討していく。